

**デジタル時代の著作権協議会  
平成22年度第2回著作権ビジネス研究会 議事要旨**

日時：平成22年9月13日（月）14：00～15：30

場所：著作権情報センター（GRIC）会議室

議題1：（講演）「著作権情報集中処理機構（CDC）」の現状について

議長：本研究会主査・菅原瑞夫

議題1：（講演）「著作権情報集中処理機構（CDC）」の現状について

本研究会主査菅原瑞夫氏が「著作権情報集中処理機構（CDC）」の理事の立場で講演を行った。

昨年9月の研究会で、同氏は、その設立目的機能面での利点、使用楽曲報告にもとづくCDCでのID作業による一元化など、この組織の構想の段階で講演を行っているが、今回の講演では、本年4月にCDCが稼動し、四半期が経過したことをうけ、その現状について報告を行った。

配付資料に沿って、管理事業者数社のデータを取り組むことで統合データベースを構築（CDC ID）し、楽曲ごとに、管理事業者を確認できるシステムが稼動していること、複数の業者のデータベースを活用することでのFP（フィンガープリント）による検索方法の充実などの稼動状況、処理件数などが説明されるとともに、楽曲使用者であるCP（コンテンツプロバイダー）管理事業者双方において作業負担の軽減、手作業の処理によるエラーの軽減、許諾漏れ、報告漏れなどが解消されている現状にも言及した。

これまでの経過をふまえ、各管理事業者の許諾単位をベースに報告を効率化することや、管理事業者数社の管理楽曲からなるメドレー使用などに対応するためのシステムの機能拡張改善計画の構想などが紹介された。

また、このシステムのノウハウは今後音楽のインタラクティブ配信のみならず、他の著作権処理の分野（放送、映像配信、電子書籍等）でも応用可能であるとの展望が紹介された。

参加者からは、CDCの財政面での運営形態について確認を求める質問や、特に講演で紹介された他の分野へのシステムの応用について興味が示され、多くの質問が寄せられた。

### 次回予告

次回の研究会は、11月8日（月）（奇数月第二月曜日）に、本年1月、平成21年度第4回著作権ビジネス研究会にて「（一般社団法人）映像コンテンツ権利処理機構」（ARMA）の構想について講演を賜った同機構に参画する本研究会副主査・椎名和夫様から、ひきつづきその現状についての講演をお願いする旨が議長から告げられた。

以上